

**第2四半期 決算説明資料
(2021年度)**

2021年12月 3日



2021年度 第2四半期 決算概要

2021年度 第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策で、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置のエリア拡大や期間延長の影響もあり、社会経済活動は依然として不透明感を残しておりますが、ワクチン接種の進展や、米国・中国など海外経済の回復を背景に、製造業の景況感は上向き傾向で推移しました。
- このような事業環境の中、呼吸用保護具全般の受注は堅調に推移しましたが、新型コロナウイルス感染症対策としてN95マスク等の受注が急増した前年同四半期と比べると、売上高は12.4%減の50億92百万円に止まりました。
- また、利益面でも、売上高の減少が大きく影響したことから、売上総利益は前年同四半期比19.8%減の15億53百万円となりました。
- 販売費及び一般管理費は、営業活動方法の見直しによる諸経費削減効果に加え、売上高の減少に伴う運送費等の低減もあって、前年同四半期比では3.6%減の14億67百万円となりました。
- 以上の結果、新型コロナウイルス感染症対策関連の受注が急増した前年同四半期と比べますと、営業利益は、79.1%減の86百万円、経常利益は、73.0%減の1億16百万円、四半期純利益は、福島県の産業復興企業立地補助金1億68百万円を特別利益に計上した結果、36.0%減の1億89百万円の減益決算となりました。

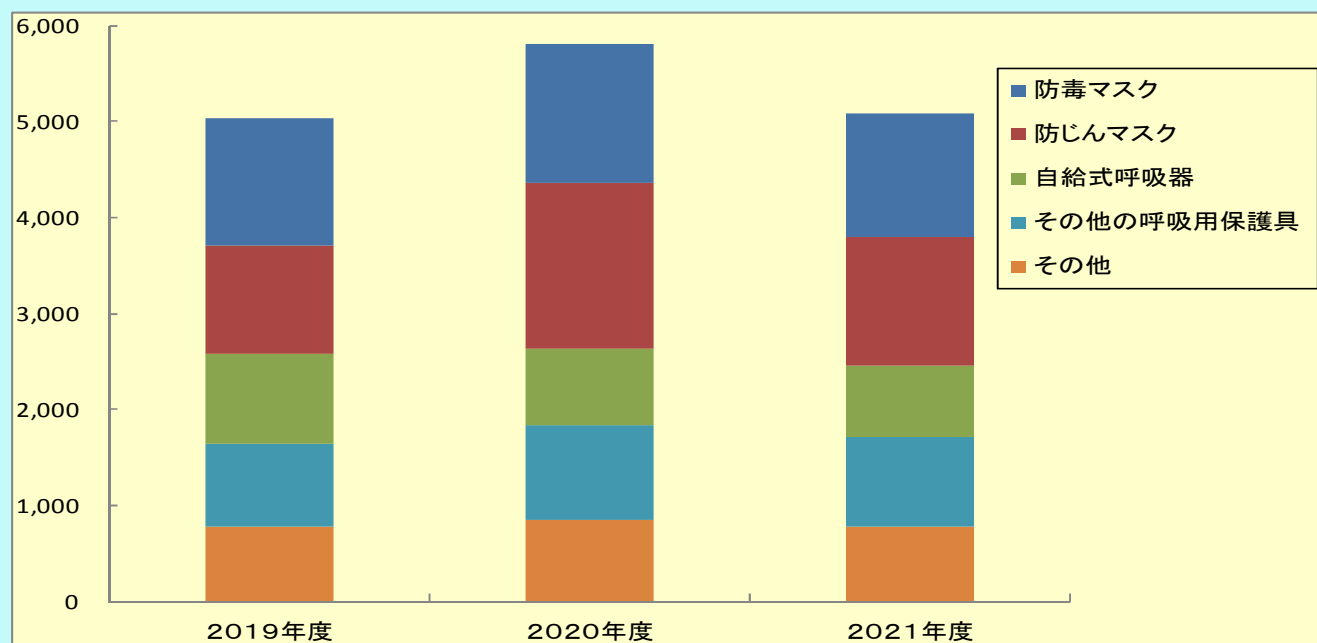
2021年度 第2四半期累計期間の損益状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	20年度第2四半期	21年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売 上 高	5,816.0	5,092.4	△ 723.5	前期に急増した新型コロナウイルス感染症対策保護具関連受注の反動減もあり、売上高は50億92百万円と、前年同期間比で7億23百万円の減収となりました。
製品製造原価	2,776.4	2,599.8	△ 176.6	前年同期間比で、製品製造原価が1億76百万円、商品原価が1億63百万円減少したものの、売上高の大幅減少に伴い、売上総利益は3億83百万円減の15億53百万円となりました。
商品原価	1,102.4	938.9	△ 163.5	
売上原価	3,878.9	3,538.7	△ 340.2	
売上総利益	1,937.1	1,553.7	△ 383.4	
販売費及び一般管理費	1,522.5	1,467.0	△ 55.5	販売費及び一般管理費の減少により、営業利益は86百万円となりました。
営業利益	414.6	86.7	△ 327.9	営業外費用の減少により、営業外損益全体の収支差が改善した結果、経常利益は1億16百万円となりました。
営業外収益	45.2	44.8	△ 0.5	
営業外費用	28.5	14.9	△ 13.6	
経常利益	431.4	116.6	△ 314.8	
特別利益	—	168.5	168.5	福島県からの産業復興企業立地補助金1億68百万円を特別利益に計上した結果、税引前四半期純利益は2億78百万円となりました。
特別損失	1.8	7.0	5.2	
税引前四半期純利益	429.5	278.1	△ 151.4	
法人税、住民税及び事業税	150.5	2.9	△ 147.6	四半期純利益は、前年同期間比で1億6百万円減少し、1億89百万円の減益決算となりました。
法人税等調整額	△ 17.1	85.6	102.7	
四半期純利益	296.2	189.6	△ 106.5	

第 2 四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



当第 2 四半期累計期間の特徴

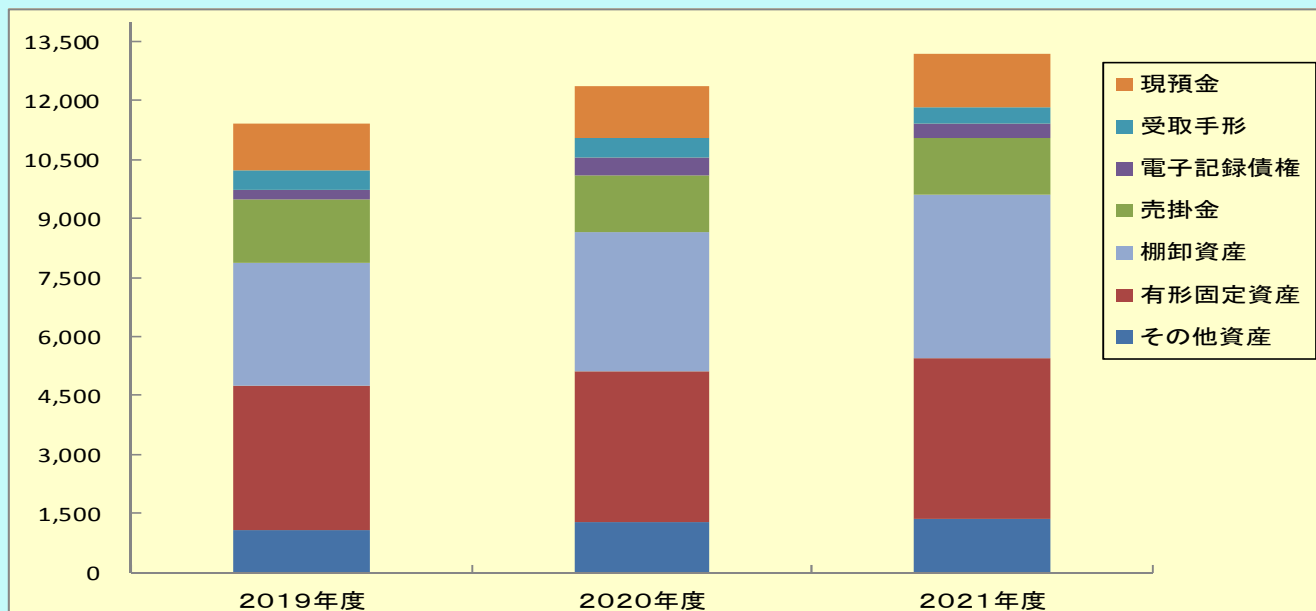
- ① 新型コロナウイルス感染症対策保護具の受注が急増した前期に比べると、当第 2 四半期累計期間の売上高は、前年同期比で 7 億 23 百万円の減少となりました。
- ② 前期に受注が急増した防じんマスクは、その反動減もあり、前年同期比では 3 億 94 百万円の減少となりました。
- ③ 前年同期比では、防毒マスクが 1 億 52 百万円、自給式呼吸器が 40 百万円、その他の呼吸用保護具が 67 百万円の減少となりました。

単位：百万円、小数点以下第 2 位四捨五入

	2019年度	2020年度	2021年度
防毒マスク	1,330.5	1,453.8	1,301.5
防じんマスク	1,126.6	1,730.1	1,336.0
自給式呼吸器	939.5	785.5	745.2
その他の呼吸用保護具	863.3	998.2	930.4
その他	776.7	848.4	779.2
合計	5,036.6	5,816.0	5,092.4

第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2019年度	2020年度	2021年度
現預金	1,177.6	1,294.0	1,361.3
受取手形	484.6	528.8	412.2
電子記録債権	264.5	441.8	370.3
売掛金	1,600.9	1,443.8	1,450.7
棚卸資産	3,116.3	3,517.7	4,139.1
有形固定資産	3,665.5	3,865.6	4,075.3
その他資産	1,087.5	1,264.2	1,374.4
合計	11,396.9	12,355.8	13,183.3

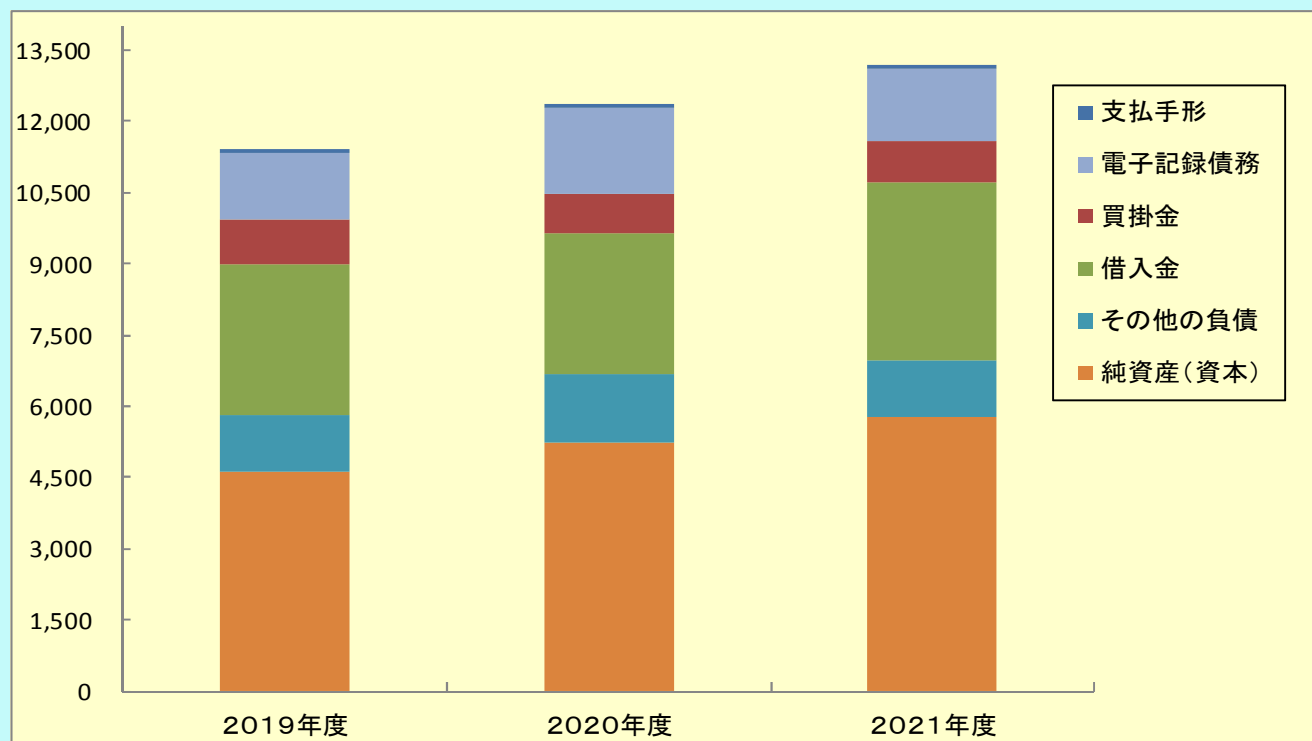
注： 本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では67百万円増加していますが、これは通常の変動範囲内にあるものです。
- ② 売上高減少の影響から、売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）は、前第2四半期末比で1億81百万円の減少となりました。
- ③ 棚卸資産は、新型コロナウイルス感染拡大の動向を視野に入れると同時に、堅調に推移する年度後半の受注増を見込んだ在庫計画のため、前第2四半期末比6億21百万円の増加となっております。
- ④ 生産能力の増強及び生産効率の向上を目的とした設備投資により、有形固定資産は、前第2四半期末比で2億9百万円の増加となっております。
- ⑤ 保有株式の株価上昇を受け、投資有価証券が前第2四半期末比で94百万円増加したことにより、その他資産全体は、1億10百万円の増加となりました。

第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

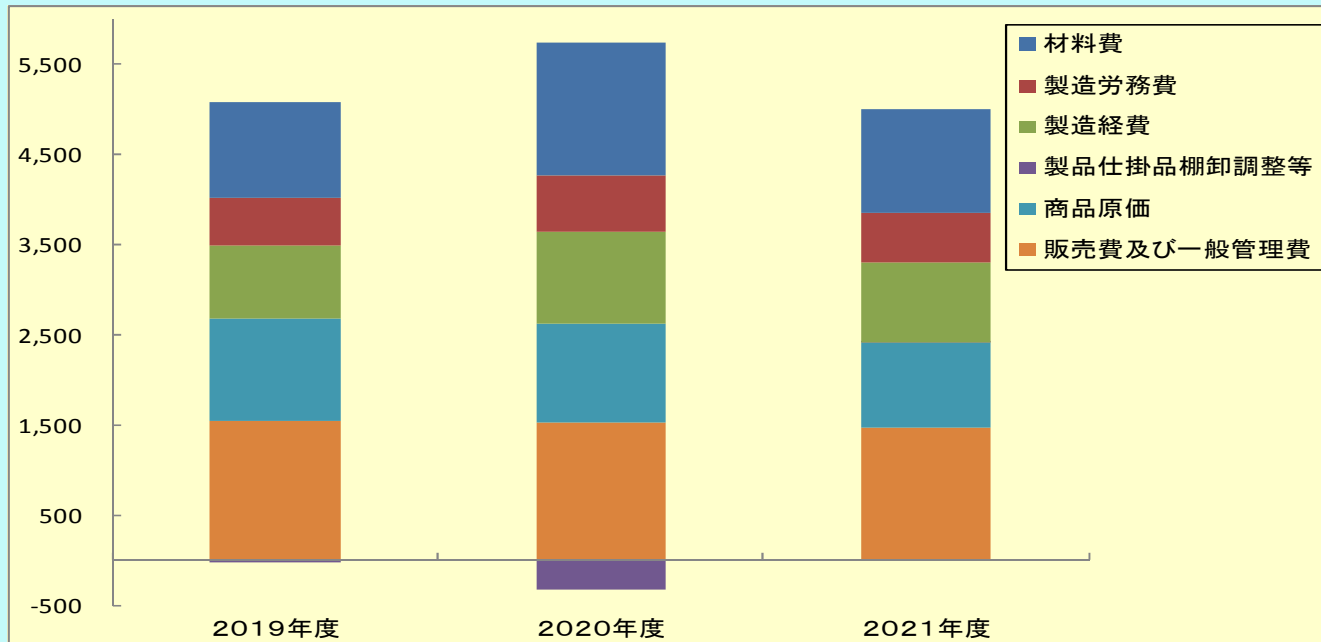
	2019年度	2020年度	2021年度
支払手形	48.4	72.8	70.4
電子記録債務	1,431.1	1,832.7	1,519.0
買掛金	915.0	827.7	867.7
借入金	3,185.0	2,930.0	3,745.0
その他の負債	1,193.9	1,442.3	1,210.0
純資産(資本)	4,623.5	5,250.2	5,771.2
合計	11,396.9	12,355.8	13,183.3

当第2四半期末の特徴

- ① 製品売上の減少に伴う材料仕入の減少により、支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前第2四半期末比で2億76百万円の減少となっております。
- ② 新型コロナウイルス感染症予防向け使い捨て式防じんマスクの生産能力増強のため、製造ライン増設を行ったこともあり、借入金残高合計は、前第2四半期末比で8億15百万円増加しました。
- ③ 前第2四半期末比で、負債合計が3億6百万円増加、純資産も5億20百万円増加した結果、自己資本比率は1.3ポイント向上の43.8%となりました。

第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2019年度	2020年度	2021年度
材料費	1,051.2	1,465.3	1,144.7
製造労務費	528.0	615.6	562.1
製造経費	826.4	1,021.3	887.4
製品仕掛品棚卸調整等	△ 0.5	△ 325.7	5.7
商品原価	1,129.4	1,102.4	938.9
販売費及び一般管理費	1,542.0	1,522.5	1,467.0
合計	5,076.4	5,401.4	5,005.7

当第2四半期累計期間の特徴

① 製品売上高の減少に伴い、材料費は前年同期比で、3億20百万円減少しています。

製造労務費は、急増した受注への対応でフル生産を続けた前年同期間と比べると53百万円の減少となっています。

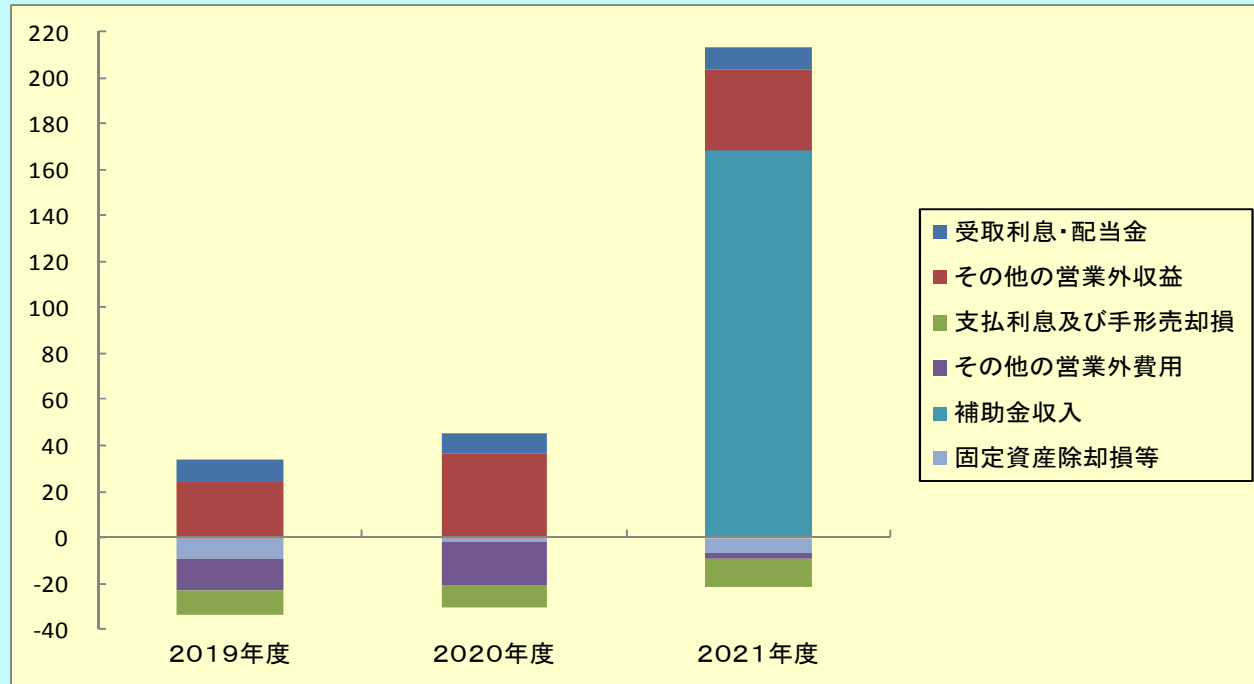
製品売上高が減少しましたが、製造経費も前年同期比で1億33百万円減少した結果、売上高に占める製造経費の比率は24.0%と、ほぼ前年同期間並みの水準を維持しております。

② 効率的な商品仕入れにより、商品原価が、前年同期比で1億63百万円減少した結果、商品原価率は前年同期間比7.2ポイント改善いたしました。

③ 販売費及び一般管理費については、営業活動方法の見直しによる諸経費削減効果に加え、売上高の減少に伴う運送費等の低減もあり、前年同期比では55百万円の減少となりました。

第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、前年同期間比で、ほぼ同水準となりました。
- ② 営業外費用は、収益認識会計基準の適用もあり、前年同期間比で13百万円の減少となりました。この結果、営業外損益全体の収支差は、前年同期間比13百万円の改善となりました。
- ③ 福島県の産業復興企業立地補助金1億68百万円を特別利益に計上しております。
- ④ 固定資産除却損7百万円を特別損失に計上しておりますが、これは老朽化等に伴うものです。

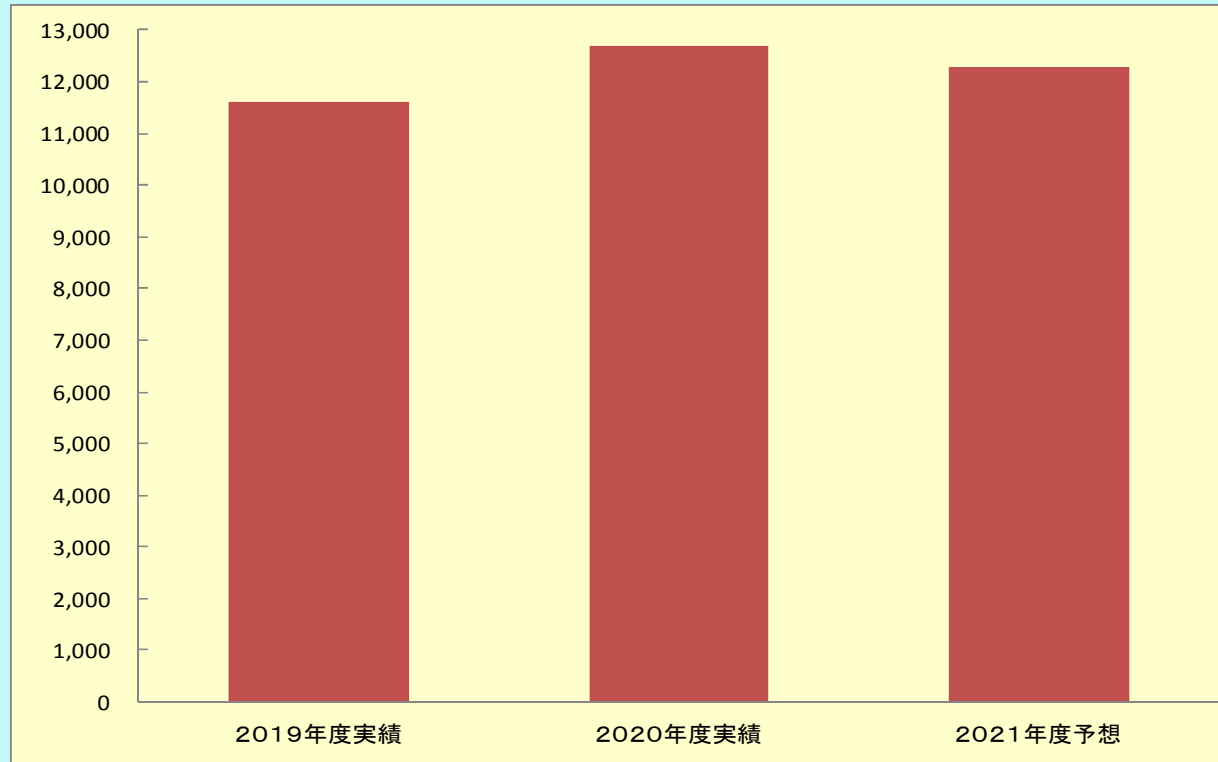
単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2019年度	2020年度	2021年度
受取利息・配当金	9.6	8.8	9.4
その他の営業外収益	23.9	36.4	35.4
支払利息及び手形売却損	△ 10.5	△ 9.5	△ 12.8
その他の営業外費用	△ 14.1	△ 19.0	△ 2.1
営業外損益合計	8.9	16.8	29.9
補助金収入	-	-	168.5
固定資産除却損等	△ 9.1	△ 1.8	△ 7.0
特別損益合計	△ 9.1	△ 1.8	161.5

2021年度 通期 業績予想

2021年度通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	2019年度実績	2020年度実績	2021年度予想
通 期	11,597	12,699	12,300

状 況 と 見 通 し

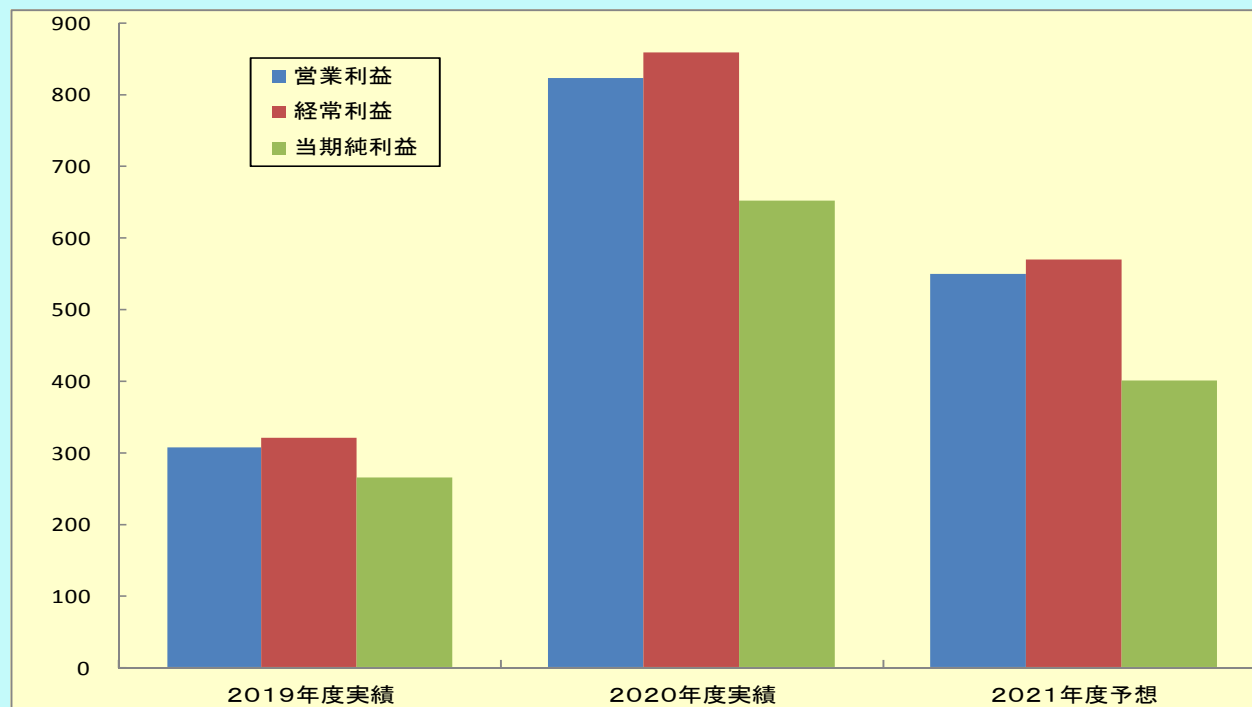
当第2四半期累計期間の売上高は、製造業向け呼吸用保護具全般の受注は総じて堅調な水準を維持しましたが、新型コロナウイルス感染症対策用保護具の受注が期初計画を下回ったことから、売上高は前年同期間比で12.4%減の50億92百万円に止まりました。

通期の売上高につきましては、新型コロナウイルスの感染動向により、業績にプラスマイナス両面の影響があるものの、主要顧客である製造業からの受注や各種インフラの整備・改修に伴う受注見通しが堅調であること等を勘案し、現時点では本年5月に公表した123億円の予想値の修正はありません。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行って参ります。

2021年度通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2019年度実績	2020年度実績	2021年度予想
営業利益	307.4	823.1	550.0
経常利益	320.1	859.3	570.0
当期純利益	265.9	651.1	400.0

状況と見通し

当第2四半期累計期間の利益面は、四半期純利益を除き、売上高の大幅減少の影響により、本年5月に公表した当初の利益予想値を下回りました。

通期の利益面については、年度後半以降も堅調な受注水準に支えられ、相応の利益水準を確保する見通しである一方、引き続き新型コロナの感染動向による利益面への影響が見通しにくいというプラスマイナス両面の要因が併存しているのが実情です。

以上のことから、現時点では、本年5月に公表しました通期の利益予想値につきましても修正は行わず、営業利益5億5000万円、経常利益5億7000万円、当期純利益4億円を見込んでおります。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。